

令和5年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500163		
法人名	株式会社プラチナライフ		
事業所名	アイフロント神田		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府池田市神田3丁目2-2		
自己評価作成日	2024年2月19日	評価結果市町村受理日	2024年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アイフロント神田の「その人の今を大切に！そして笑顔に！」の理念をスローガンにご利用者の思いや気持ちに寄り添ったケアを心がけている。
季節感を感じていただくことを目的とし、悪天候以外は散歩を日課にしている。
ご利用者にとって居心地が良く、ご本人が必要とされている思いを感じて頂けるよう、様々な事柄に協力を求め、実践している。
ご利用者に対し、常に細やかな目配りや、気遣いを心がけ、毎日笑顔で過ごせるよう支援している。
スタッフ同志のコミュニケーションの良さも、当施設のアピールポイントです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪急池田駅から徒歩圏内にある事業所は、今年創立10周年を迎えた1ユニットのグループホームです。静かな住宅地にあり、『普通の家』のような親しみやすいたたずまいで地域に馴染んでいます。理念にもあるように利用者の笑顔を大切に、ゆったりした支援をしています。法人で市内に4か所の施設を持ち、系列に福祉用具貸与の事業所もあるため連携がスムーズで便利です。毎日の散歩には力を入れて取り組んでおり、コロナ禍の中でも、暑い日も寒い日も、1対1で散歩に出かけてきました。近くの猪名川の河川敷は絶好の散歩コースです。職員同士の仲は良く、管理者と職員も風通しの良い関係で、定着率が高いことは利用者にとってもメリットです。コロナ禍で途絶えていた地域との交流も徐々に復活し、家族と一緒に楽しむイベントも今後増えていくことが期待できます。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2792500163-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	2024年3月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念「その人の今を大切に！そして笑顔に！」をスタッフ皆で共有し、運営推進会議でご家族にも都度お伝えしている。日々安心して過ごせる施設作りを心がけている。	事業所独自の理念を制定しています。運営推進会議の場で毎回読み上げ、周知を図っています。新任研修時のプログラムにも挙げています。利用者の介護度が高くなるなか、今を大事に、笑顔になれる支援を実践しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から行っている近隣の掃除をしながら挨拶を交わし、交流を心がけている。	コロナ禍で途絶えていた地域との交流が戻りつつあります。昨年のクリスマスにはギター演奏をしてもらったり、園芸ボランティアの活動も再開しました。近隣の小学校からは、毎年花の苗の贈呈があり、楽しんで育てています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者との毎日の散歩の際、地域の方々と挨拶を交わし、世間話をしたりと交流を持っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類に移行し、施設での運営推進会議を再開し、ご家族に様々な報告をし、質問やご意見をを受け付けている。	2か月に1回開催、昨年10月からは対面で行っています。全家族に案内し、複数の家族が参加しています。会場をホームのリビングとしており、利用者も参加することができます。今後、地域の方や市職員の参加も予定しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	池田市の地域支援課の担当者の方とは、役所へ出向き、さまざまな事柄で話す機会を設けるように心がけている。	市へは空室状況や運営推進会議の議事録などの報告をしています。市役所に出向き、対面で接するよう心掛けています。困難事例などでアドバイスをもらったり、市が主催の連絡会等があれば積極的に参加しています。

自己	外部	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設において、身体拘束はもちろん、スピーチロックについても研修を実施している。 施錠については、帰宅願望が強いご利用者もおられるため、臨機応変に対応している。	数日前より、つなぎ介護衣着用事例があります。「緊急やむを得ない場合」として職員と十分に検討した上、3原則(切迫性・非代替性・一時性)に則っての対応です。家族の同意を取り、様式に合わせた経過を記録し、できるだけ早期に拘束を外せるよう、観察、検討を重ねていくことになりました。	3カ月に1回の委員会の記録を確認できませんでした。年2回の研修の記録も併せて、分かりやすい書類の整備が求められます。新年度より、年間計画に挙げて実践されることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を実施し虐待に繋がらないよう、朝夕の申し送りやスタッフミーティングでディスカッションしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外において研修を受講出来るよう体制を整えている。当施設では現在は後見人制度をご利用の方はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご家族に重要事項説明書の内容を全て読み上げ内容をご理解頂いたうえで契約を締結している。後に不明点等あれば、随時説明をさせていただく旨をお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や希望はケアプラン作成の際、ケアマネが聞き取りを行い、スタッフにも周知している。運営推進会議でも意見の聞き取りを行い、玄関にご意見箱を設置している。	運営推進会議には、フロアの利用者と共に、毎回3家族以上の参加があります。家族との連絡はオンライン通信で密に取り合い、要望を聞いています。コロナ禍で中止になっていた、スプリングフェスタ(家族参加)を今年は開催する予定で、意見を聞く良い機会となります。	

自己	外部	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り及びミーティングで気づきや意見交換を行い、皆の意見を周知できるよう工夫をしている。 月1回以上、基本は全員参加のスタッフ会議を行い、活発にディスカッションしている。	月1回スタッフ会議を行っています。「議題記入ノート」を設け、職員が次の会議で検討してほしいことを挙げています。毎回10項目ほどあり、活発に提案しています。会議で決めたらすぐやってみようというスタンスで、改善につなげています。管理者との個別面談は年1回設定しています。会議や面談時に限らず意見が出しやすい職場環境です。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は施設スタッフと個々に面談を行い、目標に向けての支援制度が会社として整備されている。管理者とスタッフ間では、定期的な面談の他、様子が気になるスタッフとは都度話を聞くよう心がけている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修については、スタッフ一同での受講は不可能なので個別での対応を整えている。資格取得も推奨して支援体制も整っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は三ヶ月毎に開催されていた池田市のグループホームの連絡会に参加し他施設との交流を図っていたが、現在はそれが難しい状況である。(再開されていない。)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族やご利用者と面談を行い希望や要望、不安や困りごとを聞き取り、気持ちに寄り添い、施設での決まり事もご理解頂き、ご納得頂けるまで話し合いを行う。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、ご家族からご利用者の興味・関心チェック表を用い、生活歴等の聞き取りをおこない、ご利用者が溶け込みやすい環境作りを心がけている。	

自己	外部	項目		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の現在の状況を丁寧に聞き取りをし、必要な支援をケアマネを中心に、スタッフと共にディスカッションし検討している。(入所前に介護支援を受けていれば、ケアマネからも情報を聞き取る。)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご家族の気持ちとなり、ご利用者に残存能力を活かせるような環境作りをし、自分が必要な存在であることを感じてもらえるような声かけを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設と関わって頂き、協力を仰ぎながらスタッフと共に、普段から面会の機会や、様々な事柄に関わりを持って頂けるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行し、面会も再開している。ご家族、ご親戚、お知り合いが訪ねて来られれば、限られた時間ではあるが、ゆったりお話いただけるよう配慮している。	コロナ禍後、現在は居室で10分～15分という制限はありますが、家族との面会が再開されました。面会できない期間も、オンライン通信での面会や、写真満載のおたよりの送付(月1回)で関係継続の支援をしました。意思疎通が困難だったり、家族も知らないことが多かったりと、馴染みの人や場所の把握が難しい中、ホーム内での関係を強化しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の聞こえが悪いため誤解が生じ、言い争いになることもあるが、ご利用者同志の関係は概ね良好である。仲違いが起こったときには、スタッフがさりげなく仲を取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の理由が如何なる場合でも、困りごとや心配事が有れば、相談してもらえるようお伝えしている。		

自己	外部	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味・関心チェック表をもとに、生活歴や趣味、興味のあることをご契約の際に聞き取りをしケアに反映させている。	アセスメントは介護支援専門員が計画作成時に取り直しています。生活歴や現在の生活状況などを記録し、新たな気づきを更新しています。生活歴から興味がありそうなテレビを点けるなど、活用しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味・関心チェック表をもとに、ご家族からご利用者の詳細な情報や、今までの経過を細やかに聞き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、細やかに様子観察を行い、その日の状態の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状態を把握し、ご家族とのサービス担当者会議を実施(コロナ禍の現在は、電話やオンラインで)し、それを基に介護計画書を作成し、変化が無ければ半年に1度見直しをする。状態に変化があれば、都度見直しをする。	介護計画は、週2回勤務の介護支援専門員が作成しています。作成時は職員から十分に聴き取り、オンライン通信で逐一入る情報を把握し、本人・家族、主治医や薬剤師の意見を反映して作成しています。月に1回、本人・家族の満足度も含めたモニタリングを行い、新たな計画に繋げています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りで、当日の情報共有、意見交換を行い、記録を基に状態の変化等の把握及び、必要に応じて介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態や体調は日々変化するのでその日に応じた柔軟な対応をし、その日その日に応じたケアを心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせるよう池田市と連携を図りながら支援を行っている。豊かな自然や歴史ある街を散歩し楽しんでいただいている。	

自己	外部	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の訪問医以外の科の診察は、基本家族対応をお願いしているが、ご家族での対応が難しい場合は臨機応変施設で対応している。調剤薬局との連携も取れている。	連携医療機関による訪問診療と訪問看護は、月2回ですが、入居前のかかりつけ医への受診も可能です。歯科医の往診もあります。24時間、救急急変時の連絡体制も整備されています。調剤薬局より薬が届けられ、服薬指導も受けています。感染症、食中毒予防の研修もしています。利用者の介護度が上がる中、急変時に備え、より一層の医療連携の強化を目指しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子に変化が見られた場合は、当施設には看護師の配置がされていないため、速やかに訪問医に連絡し、指示を仰いでいる。(現在、訪問看護を利用しているご利用者がいる。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設内での情報を提供し、退院時にはカンファレンスを希望し、看護サマリーをお願いしている。病院とも連携を図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ご家族、施設管理者、ケアマネジャーと話し合いの場を持ち、看取り時に出来ること出来ないことことを説明し、ご家族の思いもお聞きした上でターミナルケアの締結を行っている。	「重度化や看取りにおける指針」に沿って、看取りケアをしています。段階に応じて話し合いを重ね、意向確認もしています。利用者が不安に過ごすことがないように、言葉掛けを多くする事を大切にしています。重度化する利用者には、看護師が褥瘡予防のケアに努めています。家族には、状態を詳細に連絡し、少しでも多く面会に来ていただけるように支援しています。厳しい言葉で介助を拒否、気丈で面会者もない中、「ありがとう」の言葉を最後に旅立たれた利用者もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を貼り出している。消防訓練のさい、消防士さんから応急手当や初期対応の教えを仰ぐ。		

自己	外部	項目		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>5月・10月に消防訓練を行い、備品の準備もしている。</p>	<p>年2回(内1回は夜間想定)、利用者も参加して避難訓練を実施し、消防署に「訓練報告書」を提出しています。発災時の連絡体制も整備し、災害時の対応に関する研修もしています。災害備蓄品は3日分確保、一括管理をしていますが、発災時に備え「災害備蓄品一覧表」を作成し、保管場所へ掲示する予定です。「事業継続計画書」(BCP)を策定しています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人生の大先輩であるとの思いから、尊敬や敬いの気持ちを持っての対話や対応を、スタッフ一同心がけている。合わせて、研修も行っている。</p>	<p>個人の人格やプライバシーを尊重した接遇で支援しています。プライバシー保護の取り組みの研修をし、レポート提出で振り返りをしています。接遇やスピーチロックの研修は繰り返し視聴できる動画で実施、不適切な言動が生じた場合、管理者はそれとなく助言しています。プライバシーの配慮から、会議では、利用者名を居室番号で表現しています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>認知症があるが故、思いや希望を言葉で表すことが難しいが、対話を大切に、話しやすい環境づくりを心がけ、ご本人の思いを尊重している。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>自宅での生活と変わりなく過ごせるよう、起床、就寝の時間を決めていない。日中の昼寝も自由に行っている。何事も無理強いないで、希望を確認し対応している。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご利用者の好みやこだわりを把握し、朝の更衣時や、外出の機会には一緒に好みのものを選んでもらっている。</p>	/	/

自己	外部	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には嚥下体操を行い、一品ごとにメニューを伝え、スタッフの声に合わせて「いただきます！」と発声を促す。下膳や片付けを利用者と共に行っている。月に1度は手作りの昼食やおやつ作りを行っている。	給食業者より2食、クックチルドで届けられ、利用者と職員で盛り付けしています。業者より、『今月の一押しメニュー』も届きます。白飯と汁物、朝食は職員が調理し、利用者はできる事を手伝っています。朝食時には、ヨーグルトと好みの飲み物を提供しています。外食自粛の中、月1回、近隣のレストランのメニューを選び、職員の分と共にテイクアウトして、出来立てのプロの味を楽しんでいます。手作りメニューの日や行事食も楽しみの一つです。個々の嚥下状態に合わせて、食事形態に配慮した支援をしています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取1000ccを目標とし、食事摂取量も記録している。水分量、食事摂取量の不足を把握し適正量が摂れるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促しの声かけをし、ご自身で難しい方はスタッフが介助しケアを行っている。月に2度訪問歯科を受診し、結果をスタッフで共有し医師の指示に沿ったケアを行っている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し、その方に応じて声掛け、誘導を行っている。トイレで排泄が出来るよう、スタッフが声掛け誘導し、根気強くトイレ介助を行っている。	トイレでの排泄を大切に、排泄チェック表を基に、それとなく声掛けし、トイレ誘導をしています。夜間は睡眠の妨げにならないように、状態を見ながらパッド交換をし、自立排泄の利用者には見守り誘導をするなど、個別に対応しています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善に水分の提供に気をつけている。水分は1日1000ccを目標とし、毎日の体操にも便秘の解消に役立つ体操を取り入れている。水分摂取が難しい方には、寒天ゼリーにし、摂取してもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフのシフト上、1週間の入浴予定を決めている。入浴は個浴で基本は週2回。浴槽のお湯は、おひとりずつ入れ替えている。	入浴は週2回ですが、柔軟に対応しています。入浴を好まない利用者には日にちを変えたり、また状態に合わせ、シャワーチェアやシャワーキャリーなどを使い分けて入浴できるよう工夫しています。自分のできる範囲は自分で洗えるよう支援し、利用者の自尊心を損なわないように心掛けています。家庭的な浴室ですが、多くの手摺りが付けられ、転倒防止マットも敷かれていて、安心して入ることができています。タオルやブラシには名前を明記し分かりやすく管理しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅でお昼寝の習慣のあった方には、様子を見ながら居室での昼寝を促したり、夜間もリビングでのご様子を観察し、就寝の声掛けをし居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携し、薬の管理をお願いしている。服薬内容が変更になった時は、スタッフとも情報共有し、変化や効果を見極めるよう、注意深く観察を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の有する能力を把握したうえで、掃除機かけ、モップかけ、雑巾がけ、洗濯物たたみ等、その方の出来ることをしてもらっている。嗜好品は、ご家族がお持ち頂いている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、ご家族と外出される方もおられ、ご家族との関わりも大切にしている。(以前は外出レクも行っていましたが、介護度が高くなり、困難になっている。)	季節を感じることを大切に、毎日の散歩を続けています。公園の花見や、八坂神社(池田市神田)への参拝など少しずつ外出の機会を増やしています。居室や居間の掃除の手伝いを通し、筋力低下予防に繋げています。行動制限緩和後、外出を再開し始めた頃の利用者の様子を、職員は改めて外出の大切さを認識しました。	外出の機会がありますが、今後はより以上の外出の機会を増やしたいという管理者の強い思いがあります。解放感に満ちた暮らしになるよう期待します。職員も楽しみにしています。

自己	外部	項目		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
			当施設では、基本金銭の所持は必要としておらず、ご家族から希望があれば、金銭をお預かりすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
			当施設では、現在手紙のやり取りをされる方はおられません。電話については希望があれば、間を取り持ち対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
			日当たりのいい場所に食卓を配置し、窓の外に花を栽培したり、居心地の良い空間となるよう心がけている。トイレには、場所が分からない方のために多く表示している。	居間兼食堂には、テーブルと幾つものゆったりとしたソファが用意され、友人との語らいの場となっています。大きな窓からは花の鉢植えが見え、外の景色を楽しむこともできます。季節の飾り物や写真は、剥がれにくいように、少し高めの位置に掲示しています。高い天井の梁には、シーリングファンを取り付け、減圧を兼ねた清浄機を設置し、換気を図っています。無機質な空間にならないよう心掛け、『和み』を大事にした居場所づくりとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
			食卓とリビングのソファの配置に距離をとり、ご自身のお好きな場所で寛げるよう工夫している。居室でお過ごしの方には、食事、おやつ、レクの時間には声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
			契約の際、ご家族にご利用者の好みの物や、使い慣れたものをお持ち頂くようお願いし、入所後も安心してお過ごし頂けるような居室作りを相談しながら行っている。	表札は大きく表示し、季節の飾り物が添えられ、入口に利用者の写真が掲示されている居室もあります。ベッド、寝具類、チェスト、ハンガーラックが用意され、利用者は使い慣れた物を持ち込みます。利用者の状態により、エアーマットや介護ベッドも導入しています。数冊の脳トレの本で楽しむ利用者、パースデーカードの掲示や、お気に入りの洋服を掛けている利用者もいます。窓からは、猪名川の花火を楽しむことができます。車椅子の動線を確認し、安心安全な居室作りとなっています。	

自己	外部	項目		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、安心安全にご自身で移動してもらえるようにしている。 トイレや浴室には、目視で分かりやすいように大きな文字で表示している。		